創世記１４・１５章

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文責五

１４章　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　書記け

[あらすじ]

メソポタミア連合軍（シヌアルの王アムラフェル、エラサルの王アルヨク、エラムの王ケドルラオメル、ゴイムの王ティデアル）にカナンの王たち（ソドムの王ベラ、ゴモラの王ビルシャ、アデマの王シヌアブ、ツェボイムの王シェムエベル、ベラの王、すなわち、ツォアルの王）が反逆→カナンの王たちはフル○ッコにされ、全財産を失う＆ソドムに住んでいたロトが捕虜にされる→アブラムは手勢３１８人を引き連れメソポタミア軍と戦闘→アブラムの勝利＆没収された財産を取り返し、ロト含む捕虜を開放→メルキゼデクがアブラムを祝福

※15章にあらすじをつけなかったのは面倒臭かったからではありません！

問い１：アブラムが勝利することができたのはなぜか？（メソポタミア連合軍は現在のシリア、イラク、イラン南西部あたりの国々が集まった大軍だった。カナンの王たちの国々は全部足しても東京２３区くらい）

五：他の問題とも関連があります。

たきさん：特殊な訓練を受けているから？

五：追撃までしてるんですよね…

ツ：主人公特性

たきさん：フラグ回収（土地を与える…）

Iさん：神様デレた？

T：傭兵中心の職業軍人による軍隊よりは、忠誠心、士気が高いかもしれない。（ペルシア戦争的な）

五：神様からの祝福を受けたから。

ツ：矢が当たらない。

Iさん：神の力があったのを示すために、人数に圧倒的な差をつけたんじゃない？

五：そもそもなんで、この実力差で反逆したんだろう？

ちなみにシャレムの王がもってきたパンとぶどう酒はイエスを表しているらしい。

問い２：アブラムはなぜ、自分の分の報酬を受け取らなかったのだろう？

け：自分の懐に入っているんじゃないの？？（小沢氏の事務所的な）

T：自分の財産は取り返しているから、かなりの余剰金があるんじゃないの？

ハ：俺は誰にも仕えない、ってことを言いたいのでは？

五：自分が神様に仕えていることを示したかったんでしょうね。

19-20：カナンの地が与えられている根拠の一つになっている（人間同士の約束）

（山本先生の解説を受けて）

たきさん：祝福しにサレムの王様がやってきたのに対して、ソドムは人返してと言ってきた。→財布出して来ない奴には奢りたくない的な心理

山本先生：ソドムの王は図々しいかもね。

アスファルト（富に結びつく）に落っこちる→皮肉っぽい表現

ある意味、したたかだったのかもしれない。（損失分取り返している。）

I：余剰がアブラム分にとってあるとは言ってないですもんね。

山本先生：戦争で儲けるな、という文言が聖書にあるよね。

戦争については女を略奪するというのも大問題。

問い３：１２章から読み返してみて、アブラムの人間性はどのように変化してる？

I：13章の時点でエジプト出た後から、良い人になった気がする。純粋に読んで思ったのは、行為だけなら信心深いように思える。ただし、本人の心理描写が無いので掴めない。

たきさん：妻を売ったことを思えば、相当勇敢になった気がする。

ツ：エジプト以後、自分が神に護られているという認識が芽生えたのでは？

I：でも20章で繰り返すでしょ？（妻を売る）

ハ：財産とか余裕できたら、器大きくなるんじゃん？

I：社会人1年生がおごりたがるみたいな？

S：最初はせこせこしてたけど、だんだん神に仕えている自覚が出てきたんじゃない？

マ：12章では妻を差し出す→15章ではロトを死守…？

五：男女の身分の違いなんじゃない？

T：妻に対する処遇としては普通だったんじゃない？

I：アブラムさん咎められてないしね。

五：いい問題だよね（自画自賛）

一応、用意してた答えとしては…　大分勇敢になったよね！！！

T：アブラム自体、優秀だから選ばれたというわけではないしね。

山本先生：

まあ、破綻してますね。（断言）

先週の地図覚えてる？（パレスチナの地形とか）

◎事実関係の整理

ソドムとアブラムの居住地は全然違う。

5人の王様の国の確認→同盟を結んだのは死海

5人の王様は、そんなに遠くなくて同じ規模。

→死海周辺の部族、メソポタミアの影響から逃れようとして反乱

サレムはおそらくエルサレムのこと（北の山）

だから、サレムの王はあんまり関係ない。（撃退してくれたら嬉しいけど、巻き込まれたくないといった立場）

反逆への失敗を受けて、死海周辺の国は完全にメソポタミアに屈服。

→北の山の部族は侵攻の危険もあるが静観してればいい。

→マムレ（アブラハムが借地してる相手）達の協力を得て、アブラムが撃退。

→アブラムはあんまり関係ないのでは？（中近東に手を出すアメリカ軍のよう）

→ただし、アブラムの行動動機はロトを助けるため。

→マムレ、エシュコル、アネルたちが協力した分については報酬を出すように求めている

→これぐらいの規模の戦争だったら、自分たちの領土から撃退するぐらいだったらできそうじゃない？アブラムがやったのはそんぐらいじゃない？（本来、戦う義理は無い）

→サレムの王は恩恵を被ったと思ったに違いない。

→祝福しに来たサレムの王に、アブラムはお金をあげた（祭司）

→成功したときは、献金するという慣習。「神様の力で勝った」（感謝献金）

・「正戦論」とは…

勝てば官軍、神、愛する人を守るため、、、、などの論点

結局、アブラムが財産を接収すると、侵略戦争ということになってしまう。

ある程度、富んだが、余剰は「祭司」に贈った。

[知識]

メルキゼデク:「シャレム（サレム）の王」「いと高き神の祭司」。『[詩篇](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A9%A9%E7%AF%87)』（76:3）の記述などを根拠に、「サレム」は伝統的に[エルサレム](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%AB%E3%82%B5%E3%83%AC%E3%83%A0)と同一視されている。

１９節～２０節はアブラハムの子孫にはカナンの相続権が確約されているとする伝統的な教義の下地になっている。

15章10節:当時の遊牧民の伝統的な契約の儀式。動物を二つに裂いて、契約する二人が二人が一緒にその裂かれた体の間を歩く。それは、もし契約を守らなかったら、自分も体を引き裂かれても文句は言わない、という意味。17節で神が裂かれたものの間を通り過ぎている。鳩を引き裂かないのは、イスラエル人が鳩を食べないため。

１５章

◎五による概要解説

6節は信仰義認説の根拠。

・どうして17節では神様しか歩いていない？（通常は2人で歩く）

I：その前に15章1節のほうが疑問。

アブラムの心境がわからない。

たきさん：あなたは死なないわ…。（エヴァより）

I：アブラムも何も貰ってなくて、不安がっているのかもしれない。

五：神様がアブラムの行為を讃えつつ、約束の件を再確認しているんですかね

戦争する前に「盾である」って言って欲しかったんじゃ…。

ハ：幻なんですけど、2節で寝ぼけたようなことを言っているし、4節で見よ！と言っているあたり、夢だったんじゃないの？

I：3節までは、あくまで幻の中でアブラムが考えた主の言葉なのでは？

山本先生：

言われたほどはもらってないのは事実。

見よ、は新約聖書にも出てくる。

（マタイのイエス誕生、1-23）

→読者の注意を引いている。

後の時代になるほど、主が夢に現れる頻度が高くなっている。

神様が語ってこないというわけではない。

幻→不思議な形で示された、主の言葉。

→アブラムが直接会わなくなってきたことも示している。

※昨年やったヘブライ書に出てくるメルキゼデクのお話を思い出してください。

（ヘブライ書７章）

15章では、イエスキリストとも重ね合わされる。

山本先生による総括

・メルキゼデクが何をしたか？→神の祝福があったからこそ、勝てたことを伝えに来た。（→ヘブライ書に続く）

・戦争に勝てたのは、愛するものを守る必死さ、訓練の賜物、正義感による士気の高さがある。

アブラハムは神様のための戦いだった述懐する。

→神の助けがあったことを後からとはいえ、信じることができたからこそ通じる話。

さて、15章に入り、これまでの旅を振り返るに結局、子供や土地を得てないkとを思い返しつつ、神の加護には感謝している。（深層心理では納得していない。）

→神は改めて成就を約束する。

問い４:１２節の「暗黒の恐怖」とは何を意味するか？

問い５::神とアブラムとの契約は成功したのか？